

あなたはあなたの子どもに、生まれた日のことを話してあげていますか。次の詩「わたしは忘れない おまえの生まれた朝を」は、1972年に私の作詞、アイ・ジョージさんの作曲・歌でレコーディングされた詩の後半の部分です。

おまえの生まれたあの日の話を
してあげよう／固いベンチ、おまえの
ママの苦しむ声が／ドアの向う、ド
アの向うできこえていた／とてもと
ても長い長い、夜だったよ

おまえの生まれたあの日の話をし
てあげよう／嵐のなか、おまえのマ
マは新しい海に／輝くいのち、輝く
いのちを生み出した／待ちこがれて
いた、出会いだったよ

この詩は、若い母親が初めて体験
する嵐のような出産のプロセスを、
「パートナーにも共有してほしい」と
願い、作ったものでした。

それから10数年後、私は、娘の陣
痛から出産までを映像で追った性教
育教材「ドキュメント・出産」を制作
しました。この時の産室は、私、娘
の夫、助産師、産婦人科医夫妻、撮影
班でぎっしり。そこに響き渡る力強

生まれた日の話——望まれたいのちと伝えて——

い産声は、まさに「輝くいのち」その
ものでした。この作品は1988年
の教育映画祭優秀賞などを受賞しま
した。

さて、子どもが3歳ぐらいになる
と、必ず聞くのが「私はどうして生
まれたの?」。もし、あなたがシンゲ
ルママ、パパであっても「今は別々
に暮らしているけど」お前の命を作
ったのはパパとママだったんだよ」と
と優しく話してあげましょう。子ど
もの心に残るようなエピソードも加
えて。それは、子どもの、「望まれて
生まれてきたんだ」という自己肯定
感を育てるキーポイントなのです。



1972年レコーディング。右 アイ・ジョージさん